

水稻・大豆栽培情報 6月号

平成 30 年 6 月 8 日
J A 柳 川
南筑後普及指導センター

【水 稻】

1 田植え

登熟期間の高温による品質低下を避けるため、適期に移植します。

<移植時期>

「夢つくし」：6月15日～

「元気つくし」、「実りつくし」：6月20日～

「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」：6月24日以降

密植は、倒伏や紋枯病等の発生の原因となるため避けます。

栽植目安：坪当たり 50～60 株、1 株当たり 3～4 本

2 病虫害防除（箱施薬）

◇「夢つくし」、「元気つくし」、「実りつくし」・・・デジタルバウアー箱粒剤

◇「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」・・・フェルテラチェス粒剤

移植 3 日前～移植当日に育苗箱 1 箱当たり上記薬剤を 50 g 施用します。

<留意点>

- ・効果の安定のため田植え前日までに散布します。
- ・確実に 50 g を施用します。（薬量が少ないと効果が不十分）
- ・散布後は薬剤定着のため軽くジョロで灌水します。

3 雑草防除

農薬の使用基準に従い使用期間内に除草剤を使用します。代かきから田植えまでの日数が長い場合、雑草の生育も進むため、使用時期が遅れないよう注意します。

<水管理>

- ・除草効果の安定のため、田面を均平にし、散布後 5 日間は田面が出ないように注意します。
- ・除草剤成分の河川への流出・流亡を防ぐため、散布後 7 日間は落水できません。（漏水に注意）
- ・田植え同時処理を行う場合は、移植後速やかに入水し、処理後 7 日間は湛水状態を保ちます。（土の戻りが悪いところでは使用を避けます）

4 麦わらすき込み田の水管理

麦わらをすき込みほ場では、ガスが発生し生育障害を起こすことがあるため、ガス抜きが必要です。

<水管理>

- ・除草剤散布後、7 日以上経過してから落水し、ガス抜きします。
- ・間断灌水を行ってガス抜きを確実に行います。



春の農作業安全月間（4～6 月） 福岡県農作業安全連絡協議会
「トラクター」の安全対策 ①転倒・転落の防止 ②公道での事故防止

【大豆】

1 播種前作業

○土づくり

◇土壤改良資材の施用（大豆は酸性に弱い作物です）

大豆栽培に適した土壤条件：pH6.0～6.5

※投入量の目安：炭酸苦土石灰 160～200kg/10a

◇有機物の施用（収量向上には地力の増強が必要です）

麦わらの全量すき込み、堆肥の施用、腐植酸質資材の「アヅミン」（40kg/10a）等の施用を行います。

○排水対策

出芽時は特に湿害に弱いため、地表排水と地下排水を組み合わせます。

◇地表排水：周囲溝や枕地作溝、排水口へのつなぎ溝等を整備します。

◇地下排水：本暗渠と弾丸暗渠を組み合わせることで、排水効果が高まります。

○施肥

◇一般ほ場：基肥としてPK化成40号（30kg/10a）を施用します。

※連作・遅播きほ場は、上記と合わせてちくごのみぐみ 444（10～15kg/10a）を施用します。

2 播種

○種子消毒

紫斑病防除、ハトによる食害の回避等のため、必ず種子消毒を行います。

◇キヒゲンR-2フロアブル・・・種子 5kg 当たり 100ml を塗沫します。

○播種時期

播種適期は7月5日～20日です。

○播種量

7月5日～20日（適期播）：3～5kg/10a、7月21日～（遅播）：6～9kg/10a

○播種深度

播種の深さの目安は2～3cmとし、土壤の水分状態に応じて調整します。
（土が乾燥している場合はやや深めとします）

3 雑草防除（平成30年5月31日現在の登録情報に基づいて作成）

使用時期	薬剤名	10a当たり 使用量	10a 当たり希釈水量 （液剤・乳剤）
耕起前 ※雑草多発ほ場	ラウンドアップ マックスロード	200～500ml	1000
播種後 ～出芽前まで	ラクサー乳剤	400～600ml	
	ラクサー粒剤	4～6kg	—
	プロールプラス乳剤 ※イネ科雑草多発ほ場	400～600ml	1000

※前年に「もちだわら」を作付したほ場では、必ずプロールプラス乳剤を使用します

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル（①適用作物、②使用量や希釈倍数、③使用時期や総使用回数、④有効期限）を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！